

製品安全データシート

1【製品及び会社情報】

製 品 の 名 称 : コスミック・フローUW主剤 モルタル 標準

推 奨 用 途 及 び : 防水材、床材（ウレタン樹脂主剤）、業務用

使 用 上 の 制 限

会 社 名 : 株式会社ダイフレックス

住 所 : 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル25F

電 話 番 号 : 03-5381-0881

輸送時の緊急連絡先 : コスミック事業部 03-5321-9761

2【危険有害性の要約】

GHS分類

物理化学的危険性

: 火薬類：分類対象外
可燃性・引火性ガス：分類対象外
可燃性・引火性エアゾール：分類対象外
支炎性・酸化性ガス：分類対象外
高压ガス：分類対象外
引火性液体：区分外
可燃性固体：分類対象外
自己反応性化学品：分類対象外
自然発火性液体：区分外
自然発火性固体：分類対象外
自己発熱性化学品：分類できない
水反応可燃性化学品：分類対象外
酸化性液体：分類対象外
酸化性固体：分類対象外
有機過氧化物：分類対象外
金属腐食性物質：分類できない

健康に対する有害性

: 急性毒性経口：区分外
急性毒性経皮：区分外
急性毒性吸入（ガス）：分類対象外
急性毒性吸入（蒸気）：分類できない
急性毒性吸入（粉塵およびミスト）：区分4
皮膚腐食性/刺激性：区分2
眼に対する重篤な損傷・刺激性：区分2A
呼吸器感作性：区分1
皮膚感作性：区分1
生殖細胞変異原性：分類できない
発がん性：分類できない
生殖毒性：分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)：区分3(気道刺激性)
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)：分類できない
吸引性呼吸器有害性：分類できない

環境に対する有害性

: 水生環境急性有害性：分類できない
水生環境慢性有害性：分類できない

GHSラベル要素
絵表示



- 注意喚起語 : 危険
- 危険有害性情報 : ・吸入すると有害
・皮膚刺激
・強い眼刺激
・吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ
・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

注意書き

予防策

- ・使用前に取扱説明書を入手し、すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
- ・容器を密閉し、容器を接地／アースをとるなど静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・防爆型の電気機器／換気装置／照明機器、及び火花を発生しない工具を使用すること。
- ・屋外または換気の良い場所でのみ使用し、粉じん／ミスト／蒸気を吸入しないこと。
- ・取り扱った後、手、顔など良く洗うこと。
- ・指定された個人用保護具(安全帽、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具、保護手袋、保護衣、保護長靴など)を着用すること。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

応急処置

- ・**皮膚(または髪)に付着した場合**
直ちに皮膚を多量の水と石鹸で洗うこと。
流水、シャワーで洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
- ・**着衣に付着した場合**
汚染された衣類をすべて脱ぐこと。
- ・**暴露または暴露の懸念がある、または気分が悪い場合**
医師に連絡し医師の診断、手当を受けること。
- ・**飲み込んだ場合**
直ちに医師に連絡すること。
無理に吐かせずに口をすすがせること。
- ・**吸入した場合**
空気の新鮮な場所に移して休息させ、医師の手当てを受けさせること。
- ・**眼に入った場合**
水で数分間注意深く洗うこと。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。またその後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- ・**特別処置が緊急に必要である場合**
ラベルの補足の応急措置指針(指針番号 171)を参照すること。

保管

- ・施錠して保管すること。
- ・容器を密閉して直射日光を避け、火気、熱源から遠ざけて、涼しい換気の良い場所で保管すること。

廃棄

- ・内容物や容器を廃棄する場合には、該当する関係法令、地方自治体の規制等に従い、都道府県知事に許可された産業廃棄物処理業者に委託して廃棄すること。
- ・使用済みの容器は、他の用途に使用しないで適正に廃棄すること。

3【組成及び成分情報】

単一製品・混合物の区別 : 単一製品

化学名又は一般名 : ポリメチレンポリフェニルポリイソシアネート (PMD I)

成分

化学名 または 一般名	濃度又は濃度範囲 (wt%)	CAS 番号	官報公示番号	
			安衛法	化審法
ポリメチレンポリフェニルポリイソシアネート (PMD I)	100	9016-87-9	既存	(7)-872
メチレンビス(4,1-フェニレン)ジイソシアネート(PMD Iに含まれる)	41	101-68-8	既存	(4)-118

*上記記載の濃度又は濃度範囲は代表値ですので、規格を保証するものではありません。

4【応急措置】

吸入した場合

新鮮な空気の所へ移し、呼吸しやすい姿勢で安静にさせる。

呼吸していて嘔吐がある場合は、頭を横向きにする。

呼吸が止まっている場合、又は呼吸が弱い場合には、衣服を緩め、呼吸気道を確保した上で人工呼吸(又は、酸素吸入)を行う。

直ちに医師に連絡し、医師の手当て、診断を受ける。

皮膚に付着した場合

直ちに多量の水又は微温湯と石鹸で完全に洗い流す。

汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。必要であれば切断する。

外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は、直ちに医療処置を受ける。

目に入った場合

直ちに清浄な流水で15分以上洗眼した後、眼科医の診察、手当てを受ける。

洗眼の際、瞼を指でよく開いて、眼球、瞼の隅々まで水がよく行きわたるように洗浄する。

コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り取り除いて洗浄する。

飲み込んだ場合

口の中を水でよく洗い、コップ1-2杯の水、又は牛乳を飲ませて、直ちに医師の診察、手当てを受ける。

無理に吐かせてはならない。

被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。

急性および遅延性の最も重要な症状/影響

5【火災時の措置】

消火剤

粉末ドライケミカル、炭酸ガス、泡消火剤、乾燥砂、大量の噴霧水

使ってはならない消火剤

棒状水

特有の危険有害性

換気の効きの悪い空調の下では、蒸気が蓄積し地面を這って着火源に到達し、引火してフラッシュバックする危険がある。

特定の消火方法

粉末ドライケミカル又は炭酸ガスで初期消火にあたる。

火災が広がった時は大量の噴霧水で消火する。

消火活動は、可能な限り離れた風上から行う。

着火していないドラム、容器等に放水し、延焼、過熱防止や破裂の防止に努める。

消火を行う者の保護

燃焼又は高温により有毒ガスが発生するので、消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。
消火作業の際は、状況に応じた保護具を必ず着用する。

6【漏出時の措置】

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

漏洩現場から関係者以外のものを避難させ、周辺にロープを張るなどして立ち入りを禁止する。
呼吸用保護具（例 空気呼吸器；JIS T 8155、送気式マスク；JIS T 8153）不浸透性の保護衣・保護手袋及び長靴・保護眼鏡を着用する。

環境に対する注意事項

出来れば、溝や土手を作って、こぼれた液を堰きとめ、漏出の拡大を防ぐ。こぼれた液や洗浄水が、下水溝、井戸や地表水へ流出、または地下へ浸透しないように努める。

回収、中和

液は金属容器にポンプで回収し、蓋は密閉すること。
少量または表面に拡がった漏出液は、不燃性の吸収材（例 砂、土、珪藻土、バーミキュライト）を覆いかぶせて吸収させ、密閉できる廃棄用金属容器に回収する。
回収した容器は密閉せず、回収した量の10倍以上となる発泡に注意し、中和／除外の処置を取る。
中和剤の例：水／濃アンモニア水／液体洗剤＝90～95／3～8／0.2～0.5(重量比)

封じ込め及び浄化方法・機材

危険なくできるときは漏洩部をふさぎ、漏洩源の制御に努める。換気をする。排水口、下水、配水施設、地面に拡がって流入しないようにする。
大量に漏出して漏出物が溜まっている場合は、盛土で囲うなどして流出を防止し、密閉できる金属容器にポンプで回収する。
少量または表面に拡がった漏出液は、乾燥砂、土、おがくず、ウェスなどに吸収させて、密閉できる廃棄用金属容器に回収する。
水上に流出した非水溶性の製品は、吸収材を使用して回収する。

二次災害の防止策

付近の裸火、熱、スパークなどの着火源を速やかに取り除く。作業に際しては、火花を発生しない安全な工具・ポンプを使用する。

7【取扱い及び保管上の注意】

取扱い

技術的対策

取扱者の暴露防止

ガス／ミスト／蒸気を吸入してはならない。
皮膚への接触を防ぎ、また目に入らないよう適切な保護具を着用する。

火災・爆発の防止

容器には、空になった後も蒸気が残っている。空又は空に近い容器を切断、穴あけ、溶接などの処置をしてはならない。
空気圧での移液は禁止。
静電気に対する予防措置を講ずる。
取扱い中及び蒸気（臭気）がなくなるまでの間、パイロットバーナー、電気の着火源（スパーク及びニクロム線）その他のすべての着火源を除く。
摩擦、衝撃を与えない。

局所排気・全体換気

局所又は全体換気のよい場所でのみ取り扱う。

注意事項

接触、吸入、又は飲み込みをしてはならない。
取扱い後はよく手や顔を洗う。

安全取扱い注意事項

取扱う前にすべての安全注意を読み理解する。

製品名：コスミックアール-UW 主剤 モルタル 標準 (5/9)

緊急時に備えて十分な数の適切な個人用保護具を常備する。
容器の転倒・落下がないよう取扱いに注意する。

接触回避

使用するまで密閉しておく。
保護手袋、保護眼鏡等を着用する。

保管

保管条件

技術的対策

施錠して保管する。
容器を密閉して保管する。
容器を乾燥した状態で保管する。
容器を換気のよい場所に保管する。
火気、熱源から遠ざけて保管する。

避けるべき保管条件

直射日光が当たる場所。
屋根がない場所。
開封状態での保管。
高温になる場所、およびその隣接した場所。

混触禁止物質

消防法で定める混載禁止物質との同一保管は禁止。
酸化剤、並びに酸化性の強い物質との同室保管を避ける。

安全な容器包装材料

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
移し変えてはならない。

8【暴露防止及び保護措置】

管理濃度：

許容濃度：

<メチレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネート>：[ACGIH] TWA:0.005 ppm、[日本産業衛生学会]0.05 mg/m³

設備対策：

取扱い場所には全体換気装置を設置する。
出来る限り密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。
高温で使用する場合は、密閉された装置、機器、または局所排気装置を使用する。
取扱い場所の近くに洗眼、及び身体洗浄のための設備を設ける。

保護具：

呼吸器の保護具

施設上の技術的な対策では完全に達成できない場合は、空気呼吸器、送気式マスク、防毒マスクなどの個人保護具の装着を義務付けなければならない。
呼吸器用保護具（例 空気呼吸器；JIS T 8155、送気式マスク；JIS T 8153）

手の保護具

保護手袋を着用する。
不浸透性の保護衣・保護手袋及び長靴
着用すべき手袋の材質：不浸透性の耐油性手袋（アクリロニトリル系、ブチルゴム、ネオプレン）

目の保護具

耐薬品性のゴーグルとフェイス・シールドの着用。眼の保護用の例として、耐薬品性ゴーグル、また飛散の危険性が高い場合は顔面全体を覆うフェイス・シールドと耐薬品性ゴーグルの併用。コンタクトレンズの装着は禁止。

皮膚及び身体の保護具

カバーオールや実験衣のような保護衣を着用する。汚れた時は、洗濯するかドライクリーニングをする。手袋は耐薬品性・耐油性のものを使用する。多量を取り扱う場合は、不浸透性の防護衣、安全帽、保護長靴、保護前掛けを着用する。

製品名：コスミックアロー-UW 主剤 モルタル 標準 (6/9)

適切な衛生対策

この製品を使用するときは、飲食または喫煙をしてはならない。

取扱い後は手や顔をよく洗う。

汚染した衣類を再使用する場合は洗濯しておく。

9【物理的及び化学的性質】

外観（物理的性状・色）	：暗褐色粘稠液体
臭い	：ほとんど無し
粘度	：非公開
pH	：データなし
融点・凝固点	：データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	：260℃付近で二酸化炭素(炭酸ガス)を発生し重合。
引火点	：226℃
爆発範囲の上限・下限	：データなし
蒸気圧	：メチレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネートとして 4×10^{-4} Pa(25℃)
蒸気密度	：メチレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネートとして 8.5(空気=1)
比重（相対密度）	：1.22～1.25（25℃）
溶解度	：有機溶剤に可溶
n-オクタノール／水分配係数	：データなし
自然発火温度	：データなし
分解温度	：データなし

10【安定性及び反応性】

安定性

常温、通常の条件下では安定である。

危険有害反応可能性

イソシアネート基は水と反応して発熱し、炭酸ガスを発生する。この反応が密閉容器内で起こると、容器が膨れ、場合によっては破裂することもある。

酸化剤と反応し、火災になることがある。

避けるべき条件

水、湿気、加熱、燃焼、混触危険物質との接触

混触危険物質

酸化剤

危険有害な分解生成物

火災および高温により二酸化炭素、一酸化炭素、その他有毒ガスが発生する恐れあり。

11【有害性情報】

物理的、化学的及び毒性学的特性に関係した症状

データなし

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性：(区分1)

皮膚感作性：(区分1)

生殖細胞変異原性

(分類できない)

発がん性

(分類できない)

急性毒性

経口毒性：LD50 > 20,000 mg/kg(計算値)(区分外)

経皮毒性：LD50 10,000 mg/kg(計算値)(区分外)

製品名：コスミックアロー-UW 主剤 モルタル 標準 (7/9)

吸入毒性(蒸気)：(分類できない)

吸入毒性(粉じん/ミスト)：LC50 5mg/L(区分4)

皮膚腐食性・刺激性

(区分2)

眼に対する重篤な損傷・刺激性

(区分2A)

生殖毒性

(分類できない)

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露

(区分3)(気道刺激性)

特定標的臓器・全身毒性－反復暴露

(分類できない)

吸引性呼吸器有害性

(分類できない)

<上記 GHS 分類の区分判定を実施した際の注意点>

注意 1：ホリマレンボ® リフェニルボ® リソシアネート(PMDI)の GHS 分類は、文献調査結果より区分した。

(ホリマレンボ® リフェニルボ® リソシアネート(PMDI))

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性：(区分1)

皮膚感作性：(区分 1)

生殖細胞変異原性

(区分外)

発がん性

(区分外)

急性毒性

経口毒性：LD50 49,000 mg/kg(区分外)

経皮毒性：LD50 10,000 mg/kg(区分外)

吸入毒性(蒸気)：(分類できない)

吸入毒性(粉じん/ミスト)：LC50 5mg/L(区分 4)

皮膚腐食性・刺激性

(区分2)

眼に対する重篤な損傷・刺激性

(区分 2A)

生殖毒性

(区分外)

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露

(区分 3)(気道刺激)

特定標的臓器・全身毒性－反復暴露

(分類できない)

吸引性呼吸器有害性

(分類できない)

12【環境影響情報】

生態毒性

水生環境急性有害性：(分類できない)

水生環境慢性有害性：(分類できない)

<上記 GHS 分類の区分判定を実施した際の注意点>

注意 1：ホリマレンボ® リフェニルボ® リソシアネート(PMDI)の GHS 分類は、文献調査結果より区分した。

製品名：コスミックアロー-UW 主剤 モルタル 標準 (8/9)

(ボ° リメチレンボ° リフェニルボ° リイソシアネート(PMDI))

水生環境急性有害性：(分類できない)

水生環境慢性有害性：(分類できない)

残留性・分解性

データなし

生態蓄積性

データなし

土壌中の移動性

データなし

13【廃棄上の注意】

残余廃棄物の廃棄

環境への放出を避ける。

残余廃棄物の廃棄は、該当する関係法令、地方自治体の規制等に従って行う。

製品の処分は都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理専門業者に成分を明示して契約を締結して委託し、適正に処理すること。

汚染容器及び包装の廃棄方法

空容器は製品の残滓が入っているので、製品についての注意事項に従う。毒性の蒸気やガスが発生するので、容器を電気又はガスによる加熱や溶断してはならない。空容器は、業者による洗滌と修理をしないで再利用してはならない。容器を廃棄する場合は、廃棄前に製品の残滓が全て除去されていることを確認する。

空容器の処分は都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理専門業者に契約を締結して委託し、適正に処理すること。

14【輸送上の注意】

国連番号	：非該当
指針番号	：
品名（国連輸送名）	：－
国連分類	：非該当
容器等級	：－
海洋汚染物質	：
安全対策	：火気厳禁 輸送前に容器の破損、腐食、内容物の漏れがないことを確かめ、転倒、落下、破損の無いように積み込み、荷崩れを防止すること。
応急措置指針番号	：171
陸上輸送	：消防法、道路法、労働安全衛生法の輸送について定めるところに従う。
海上輸送	：船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送	：航空法に定めるところに従う。

15【適用法令】

消防法：

危険物第4類第4石油類 危険等級Ⅲ

労働安全衛生法：

名称等を通知すべき危険物及び有害物 (599 メチレンビス(4,1-フェニル)ジ'イソシアネート)

(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

変異原性が認められた既存化学物質 (121 メチレンビス(4,1-フェニル)ジ'イソシアネート)

(法第57条の5、労働基準局長通達)

製品名：コスミックアロー UW 主剤 モルタル 標準 (9/9)

化学物質管理促進法：

第1種指定化学物質 (448 メチレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネート)
(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)

毒劇法：

非該当

海洋汚染防止法：

船舶安全法：

非該当

航空法：

非該当

その他：

一般論として廃棄物の処理及び清掃に関する法律、水質汚濁防止法、道路運送車両法、作業環境測定法、海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律などが関与する。

16【その他の情報】

参考文献：

自社データ

三省告示（厚生労働省、経済産業省、環境省 GHS 関係省庁連絡会議：NITE HP）

European Union Risk Assessment Report, Volume:59

記載内容の問合せ先：

株式会社ダイフレックス 技術グループ

TEL:047-436-0811 FAX:047-436-0815

本データシート記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、化学品の含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。

記載のデータ及び評価については必ずしも十分ではありませんので、取扱いには注意してください。

また注意事項は、通常の実施を前提としたものですので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

以上
